

# LEIOだより

(1) 畜産環境技術研究所  
(2) LEIO日誌  
人事異動

## 畜産環境技術研究所

### 家畜ふん堆肥を活用した畑地の土壌改良効果実例集を作成しました

畜産環境情報第45号では「たい肥と土壌養分分析に基づく調整施肥設計システムの開発」について、土壌中養分の簡易推定法を開発し、既存のたい肥成分分析による肥効評価を組み合わせ、かつ不足する肥料分は化学肥料で成分調整する施肥設計システムを紹介しました。これと並行して実施した事業の「たい肥の土壌・作物への施用効果の解明とたい肥施用基準の作成」では、家畜ふんたい肥の土壌改良効果を評価する手法を開発するとともに、土壌改良効

果を考慮した家畜ふんたい肥の施用方法を提案しました。

本事例集では、黒ボク土と灰色低地土の畑地土壌を対象として、これまで家畜ふんたい肥の付加価値として明確にされていなかった土壌改良効果に視点をおき、家畜ふんたい肥の利用方法を解説するとともに、耕種農家がどのような家畜ふんたい肥を選択すべきかを判断する材料として、土壌改良効果の実例を提供しています。土壌改良は、収穫量の向上、収穫物の高品質化、収量や品質の安定性向上などを目標として行いますが、土壌は物理性、化学性、生物性といった側面が密接に関係しあいながら作物の生産を支えています(図1)。畜産環境技術研究所では、たい肥が1年間に土壌中で分解を受けた後に残る有機物量「1年後残存有機物量」を土壌改良効果の指標として提案しています(図2)。栃木県をはじめ関東6県の黒ボク土と灰色低地土の畑地土壌にたい肥を施用し、各種の野菜を栽培した試験結果及び事例をインターネット(<http://www.chikusan-kankyo.jp/tai-hiss/dozyoukairyou.htm>)に掲載しています。

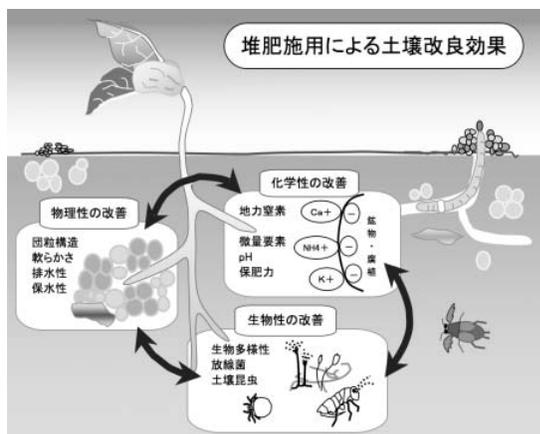


図1 たい肥施用による土壌改良効果

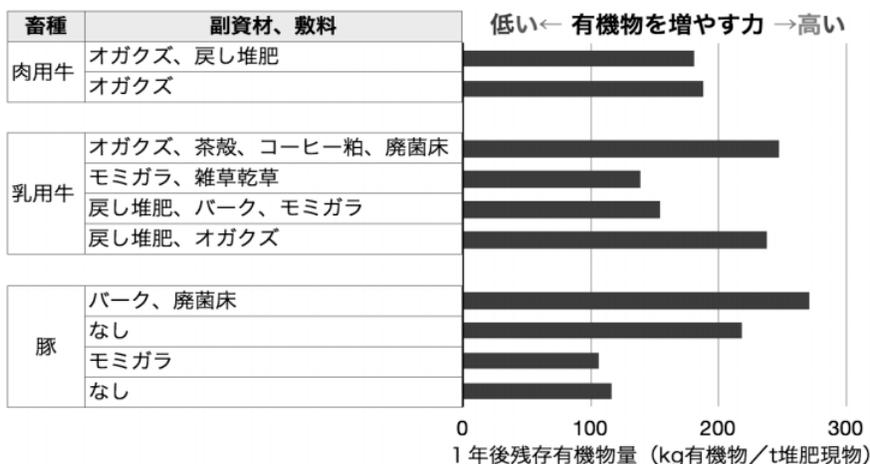


図2 家畜ふんたい肥の「1年後残存有機物量」を測定した結果

**I 平成22年7月～平成22年11月までの出来事**

**1. 畜産環境アドバイザー研修（基礎技術コース）－中央研修会**

研修会名	講座名	開催年月日	開催場所
第1回中央研修会	臭気対策	22年10月18日～10月20日	家畜改良センター 中央畜産研修施設 (福島県白河)
第2回中央研修会	堆肥処理	22年11月8日～11月12日	

**2. 畜産環境アドバイザー研修（基礎技術コース）－地域研修会**

研修会名	開催県	講座名	開催年月日
第1回地域研修会	北海道	堆肥化处理	22年7月26日～7月30日
第2回地域研修会	新潟県	汚水処理	22年8月2日～8月6日
第3回地域研修会	愛媛県	堆肥化处理	22年9月13日～9月17日
第4回地域研修会	北海道	汚水処理	22年9月27日～10月1日
第5回地域研修会	鹿児島県	汚水処理	22年10月25日～10月29日
第6回地域研修会	沖縄県	汚水処理	22年11月29日～12月3日

**3. 畜産環境アドバイザー研修（ステップアップコース）**

研修会名	開催県	開催年月日	講座名
第1回ステップアップ研修会	愛知県	22年7月21日～7月23日	堆肥化处理

**III 人事異動**

**【職員】**

退職（22.9.30付）

業務部参与 植野 誠 一